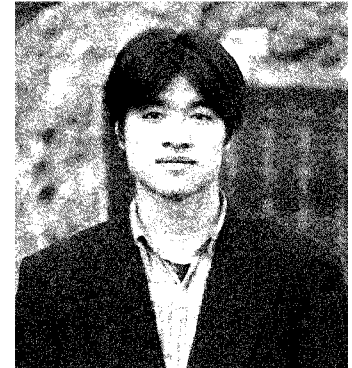


都留文‘化’大学から 都留文‘科’大学へ ～学生と市民のさらなる交流を目指して～ 社会学科2年 溝口光則

私の故郷は茨城県の那珂町という、水戸市の北隣に位置する人口四万六千ほどの町です。水戸市のベッドタウンとしてやや近くにある日立製作所に勤務する人が多く住んでいます。町の中心地では小さなお店が並ぶ商店街とバイパス沿いに大型店が進出する二大商業地があります。ですが中心地を抜けると田畑が多く残っていて、田舎といえば田舎ですけど、とても



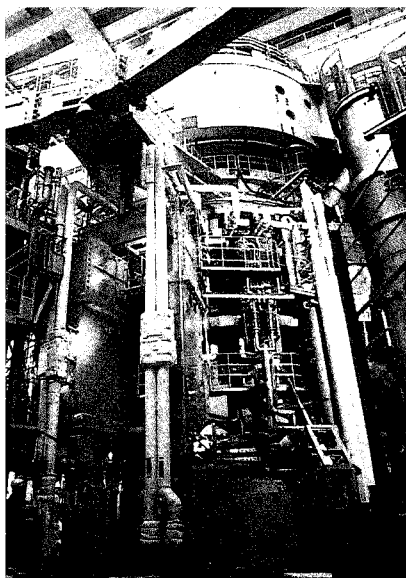
のどかで私は好きです。都留に初めて来たときの第一印象は、四方を山に囲まれて緑が多く、また街中（大学周辺）の至る所に水が流れていて自然が多いということでした。初めて谷村町駅に降りたとき、文大生のたいていの人はあまりの田舎さに（自分の描いていたイメージとの違いに）愕然とするようですが、私は山に囲まれていること以外はたいして故郷と変わらないことにホッとしたのを覚えています（私は東京のような大都会にはあまり住みたくなかったのです）。でも大学付近から富士山が見えないのにはさすがにがっかりしましたけど。

私は学生自治会やサークル活動（新聞部に所属しています）の関係で市民の方と接することがありますが、そのときにはどの方も暖かく接してくださいます。しかしまだ、市民の方と文大生との交流は深くないようです。それは都留文科大学の「科」を「化」とよく間違われることが証明していると思います。もっと交流を深めたいと思います。交流というと難しい感じがしますが、何てことないと思



います。気軽に声をかければいいのです。あいさつでもいいから言葉を交わすことだと思っています。今は文大生も市民の方もお互いに言葉をかけつらい意識があると思いますが、話をすればそのうち信頼関係ができてくると思います。そうしたらそれがもう立派な交流になっていると思います。文大生は全国から集まっています。市民の方と話すことはお互いにいいことではないかと私は思います。

私は地方自治論を専攻していることもあって、地方行政には関心があります。その町の将来をどのようにしたいと考えているのか、とても興味があります。私は那珂町と都留市は行政的には似ているように思います。都留市はリニアモーターカー実験線の誘致に成功しました。那珂町では今、ITER（イーター、国際熱核融合実験炉）の誘致をしています。どちらの自治体の場合も少なからず町おこしの意味をこめていると思います。ですが、今のところどちらの自治体もそんなに町おこしに貢献しているようには私にはみえません。それはおそらくリニアにしてもITERにしても住民にとっては深い知識がないと理解のしづらいものだから



現在の核融合施設

だと思っています。私は住民が関心をもつて盛り上げていけない町おこしは成功しないと思っています。成功するためには、行政が住民にとってわかりやすいものであることが重要だと考えます。都留市の場合にはこの自然を生かしたものがいいのではないのでしょうか。開発による町の活性化もひとつの手ではありますが、せっかくの豊かな自然を生かした方が私はいと思います。ここで何か具体的な提案ができればいいのですが、そこまで考えつかないのが悔しいところです。

学生は何かの縁があつて都留文科大学に入学して、都留というフィールドで四年間を過ごします。そのなかで学生と市民とがもっと心を通わせられたら、双方にとって財産です。大学にとっても存在意義が高まります。これからの双方のために、大学のために、都留市のために、もっとお互い言葉を交わしていくことが重要だと私は考えています。